

第 295 回

エフエム石川放送番組審議会議事録

議 題

業務概要の報告

試聴・意見提出

令和 2 年 6 月 2 日

株式会社エフエム石川

第 295 回エフエム石川放送番組審議会

1. 開催期間 令和 2 年 5 月
2. 開催方法 書面開催（新型コロナウイルス対策として）
3. 委員数 総数 7 名
 意見数 7 名

意見提出者（50音順）

委員長 ：柳澤良一

副委員長：清水克弥

委員 ：大場 司、工藤彩子、久保 勉、平木孝志、宮川昌江

放送事業者

代表取締役社長 平田 信也

放送担当部長 安地 昭博

4. 議題
 業務概要の報告
 番組試聴・意見提出

議事内容

[業務概要の報告]

書面で伝えられた業務報告は以下のとおりです。

4月1日で開局30周年を迎えた当日は特別番組『HELLO FIVE 30th Dear ANNIVERSARY ALL THE WAY～あなたの RADIO ハートとともに～』（13:30-15:55）を生放送で行った。

30周年記念事業として『防犯ブザー プレゼントキャンペーン』を展開し、県内の小学1年生全員（約1万人）に各小学校で配布した。

4月の番組改編では自社ワイド番組の変更はなく、エフエム東京およびJFN（ジャパン・エフエム・ネットワーク）の改編による変更が主な内容となった。

新型コロナウイルスの感染拡大防止策として実施している内容を報告した。

[番組の試聴・意見提出]

【試聴番組】

番組タイトル：TOKYO SPEAKEASY（トーキョー・スピークイージー）

放送日時：2020年4月8日（水） 01:00 - 02:00（深夜）

出演：林 真理子（小説家、エッセイスト）

見城 徹（幻冬舎 社長）

企画・制作：JFN（ジャパン・エフエム・ネットワーク）

【番組内容】

作詞家の秋元康さんが監修し4月にスタートした新番組。

毎回大物ゲスト2人が深夜の架空のバーで筋書きのない生放送トークを展開しています。審議対象になった回では、小説家でエッセイストの林真理子さんと、幻冬舎社長の見城徹さんが、出会いのエピソードや、林さんの直木賞選考の裏話、見城さんとシンガーソングライター 尾崎豊さんとの秘話について話が展開されました。

■大場委員

深夜の時間帯なので、FM番組でも二人のトークだけで進行する番組があってもよいと思う。企画の主旨は理解できる。

今回は、作家の林真理子さんと幻冬舎社長の見城徹さんだが、リスナーにとってはだれとだれのトークなのかが一番の問題である。当然のことながら、関

心や興味のある人ならそそられるが、逆の人のトークは厳しい。

私にとって今回のお二人には普段関心はないので、一時間のトークはとても長かった。番組中に放送された曲は一曲だけだったが、話の途中で出てきた「星影のステラ」もかけて欲しかった。やはりトークだけでは単調すぎる。

話の内容は、二人の回顧談が中心。番組の構成上、内輪話にならざるを得ないのだろうが、ノスタルジー話が長すぎた。他人の昔話は、よほど興味深くないとリスナーはついていけない。

直木賞の選考話や出版業界の内幕話は、50代以上のひとじゃないと分からない。若い人にはまったく興味のない世界ではないか。トークの工夫がもっと欲しかった。

ただし、見城さんと尾崎豊のかかわりについては面白かった。出版界で成功している人物だけのことはあると感じた。林真理子さんが「歳をとって、いい人になった」という見城さんの見方は共感できた。

■工藤委員

深夜に生放送で2人のゲストが会話するという形式は緊張感があってよいと思う。その半面、1時間で話にキリがつくのかは回によってバラつきが出るのではないかな。

今回の林真理子さんと見城徹さんは、お二人が長い付き合いだということが背景にあり、しかも作家と元編集者であるのなら面白いであろうという安心感があった。林さんがコピーライターをしていたことや、今までにどんな作品を執筆し、編集者がどんな気持ちで林さんの事を見ていたのかという舞台裏がよく分かった。番組全体を通じて、林さんが聞き手側にまわり、見城さんが発する言葉を林さんが受け取って次に展開していくコンビネーションがよかった。

尾崎豊さんと見城さんの関わりを聞いた後で聞いた尾崎さんの歌は、とても心に響いた。

今後の展開として気になるのは、いくら秋元康さんの人脈が広いとはいえ、毎週4組のゲストを揃えらるとなると、「この話を聞いてみたい」と感じる回が減っていくということにならないよう、工夫が必要だと思う

■久保委員

林さんと見城さんの会話が小気味よく、1時間があっという間に過ぎた印象だった。話の内容も興味深いものが多く、「へえー」と感心するエピソードが

ちりばめられていた。「心に届ける究極の生放送」という企画意図が生きていると思う。

選曲が秀逸だった。尾崎豊を巡る秘話を聞いた後に曲を聴くと、いっそう心に染みた。番組で音楽を流す際、ゲストがただ単に好き、という理由で曲を選ぶケースが見られるが、今回のように深い背景のある選曲は、番組自体の価値を高めると思う。

次回を聴きたくなるような番組であった。出演者選びがいかに重要であるかを再認識する。視聴者の「聴きたい欲求」を満たす番組を今後も提供してほしい。

■平木委員

番組の冒頭から怪しげな深夜ナイトバーの雰囲気も良く、ジャズや静かなピアノ演奏も効果的に響き、旧知の見城徹さん、林真理子さんが日常の飾らない言葉での生トークは、60分が短く感じるほどたいくつせずに聴きました。

二人が初めて会ったルコンドでの思い出話や、林真理子さんの直木賞選考での裏話など、特に受賞候補作・小説「葡萄が目にしみる」の最終章についての論評など、見城さんの記憶力には驚きました。また、尾崎豊の才能についての会話では、尾崎の復活アルバムにかけた思いにはとても興味深く聴きました。

「アイラブユー」の曲が流れたのも効果があり、番組としては企画・構成もよく、深夜一時からの番組ですが夜明けまで聴いていたくなるような番組だと思いました。

■宮川委員

出演者のざっくばらんな話し方が好感持てました。普通では実現できないかもしれない組み合わせで良い企画でした。

構成はとても良かった。スタートの真夜中が好きとの俳優の國村隼のトークに始まり最後に締めくくっている処がスマート。見城徹と林真理子とのトークはとても面白かった。中身のお話は濃いもので年代を追って、幾つか林真理子の小説を話題に繰り広げられお二人のお話は二人の小説を書いているかのような構成だった。

今回のコロナウィルスによる若手作家達への思いやりも込められていてとても良い番組でした。見城さんが褒めていた林真理子さんの「葡萄が目にしみる」

や「星影のステラ」を読みたくなりました。

■清水副委員長

出演者がいずれも知名度の高い方ばかりで、また台本なしのフリートークということで、リスナーが出演者の素を垣間見ることができるおもしろい番組だと思う。

深夜のバーでお客の四方山話に聞き耳を立てるといふ人間が本能的に持つのぞき見的な好奇心を満足させてくれる番組ではないか。放送が深夜というのも、こうした番組では、よい時間設定だと思う。

60分と長い番組なので、もう少し音楽がほしい。

■柳澤委員長

文壇や編集者の「内輪話」は、それなりにおもしろく拝聴しました。しかし、この対談には話の広がり少なく、やはり「内輪話」の域を出ていないように思います。ただし、最後の尾崎豊の挫折期の話はたいへん興味深く拝聴しました。「アイラブユー」の曲を最初から切れ目なくじっくり聴きたいと思いました。また、BGMではなく対談の合間にきちんと何曲か音楽を流すなど、対談に興味をもってもらえる工夫があったらよかったですと思いました。

新型コロナ禍の三月～五月は、一般の人にもラジオを聴く楽しみが増えたようです。良い番組が増えるとよいと思います。

[審議会の答申、または改善意見に対してとった措置]

制作者に内容を伝達

[議事の概要を公表する場合の日時や内容]

第 295 回番組審議会の議事概要の公表

令和 2 年 6 月 13 日(土) 19:55 ～ 20:00 に放送

掲載書面の備え置き、及びインターネット・ホームページへの掲載